

歯に被せる治療をする場合に、<sup>B B B</sup>白い歯で被せる治療法（特に前歯の治療に必要となりますが、奥歯にも白い詰め物をしたり被せものを入れることが可能です）には、以下のような方法があります。

名称	材質	保険適応
i. 硬質レジン冠	硬質プラスチック	○ 小白歯
ii. 硬質レジン前装冠	金属に硬質プラスチックを盛り上げたもの	○ 前歯
iii. ハイブリッド冠	硬質プラスチックとセラミックの複合材	×
iv. セラミック焼き付け冠	セラミックを金属に焼き付けたもの	×
v. セラミック冠	全てセラミック	×

いずれの方法でも前歯に白い歯を入れることができますが、製作方法と材料の特性に違いがあります。現在のところ i. と ii. が保険適応で、iii. iv. v. は自費診療になります。現在は保険でもある程度の希望にそった治療がまかなえるようになっていますが、それが最良の方法というわけではありません。”より美しく自然にしかも長持ちさせたい”といったような付加価値が求められる場合には、保険以外の方法で治療することによりその要望を満たすことも可能です。ここでは保険と自由診療との違いについてご説明します。

## I. 支台部分の違い

被せる前の準備として、必要があって根の消毒を行った場合には支台（図1参照：被せる歯の土台となる部分）を作ります。

それぞれの材質としては

保険・・・レジン（プラスチック）か、銀

自費・・・銀、パラジウム、金の合金

を使用します。自費で使用する支台の金属は保険の金属冠の材料としても使用されており、また型を採る際から精密な過程を経て製作され、歯根への適合も良いため耐久性が向上します。

## II. 冠の違い

### a) 色調とその安定性

右の<図2>は違いを分かりやすくするため、治療モデルに光を当てながら写したものです。ii. 硬質レジン前装冠は装着直後には、ある程度周りの歯の色とも調和していますが、3年ほどで表面が変色してきます。セラミックは色の調和がよく、色調の変化もありません。

### b) 適合性

保険と自費診療では型採りの方法や材質、製作過程が異なります。図3と図4は歯の辺縁部（冠と歯根との境目）の100倍の顕微鏡写真です。保険の歯では平均150ミクロン（=0.15ミリ）の隙間ができますが、自費の場合では、平均20ミクロン（=0.02ミリ）です。隙間は歯垢が付きやすいため、なるべく少なくしたほうが良いのです。

### c) 耐久性

単純に強度だけ比較すれば、レジン<セラミック<金属の順になります。対磨耗性で比較すれば、レジン<金属<セラミックの順になります。長期の使用やブラッシングによる磨耗に耐えられる材質が必要ですが、レジンでは磨耗し減ってくる場合があります。

このように保険治療は治療直後にはある程度の満足を得られるものの、最良というわけではありません。この他にも治療の選択肢がありますので説明をご希望の場合にはお申し出ください。

なお当医院では自費診療の保証期間を5年に定めていますが、長く快適にお使いいただくために定期検診をお勧めしております。

<図1>



金属の支台

<図2>



iv. セラミック焼き付け冠  
ii. 硬質レジン前装冠

<図3>



保険の歯の辺縁部

<図4>



自費の歯の辺縁部